

♪ 2018年度 **poco a poco** ♪

Nr. 3 2018年5月3日(木) 文責: プファイル・辰巳

Spargel ~ Erdbeeren

~ Kirschen ~

町中にも田舎道脇にも、あちらこちらに白アスパラやいちごを売るスタンドが開き始めましたね。白アスパラは6月24日まで収穫できるという決まりがあるそうです。その後は来年の収穫に備えて、根っこを保護するのだそうです。



いちご畑に「いちご摘み」の旗はまだ見えないようですが、楽しいいちご摘みももうすぐですね。それが終われば、今度は店頭で甘いサクランボが並びます。旬のものを味わいながら、季節を楽しめるのはうれしいものです。

さて、日本人学校では第1回目の授業参観が終わり、6月の運動会に向けての準備と練習が始まりました。連休が何度もあり、学校生活のリズムはややつかみ難い感もありますが、よく学び、よく身体を動かし、お休みするときにはしっかり休んで、メリハリのある生活を送るよう心がけたいものです。

音楽こぼれ話

<「拍手」について考える>

今回は連載<作曲家のこの一曲>はお休みにして、この頃コンサート会場に足を運ぶたびに感じることを書かせていただこうと思います

3月には卒業式、4月には入学式があり、日本人学校では、式典中の拍手のタイミングなども練習しました。「拍手」はもちろん自分がすばらしいなと思った時や、おめでとの気持ちを表す時にするものです。でも、たくさんの方が集まる場所で拍手を始めたり終わらせたりするタイミングというのはけっこう難しいものです。



コンサート会場でも、拍手のタイミングは大切です。もちろん拍手は曲が終

わった時にするのですが、ここに微妙な間合いが必要です。例えば、大きく盛り上がり、フォルテで終わるような曲の場合は、比較的時間髪を入れずに拍手をしても大丈夫ですが、最後の音の余韻をしっかりと楽しみたい曲の場合は、その余韻が消えるまで待たなければなりません。

最近、コンサート会場でがっかりするのは、この余韻を待てない聴衆が増えたことです。こちらがまだその「間」を楽しんでいる時に、バチバチ・・・とやられると、「何を聴いているのだ、この人たちは!」と、つい一人ずつぶやきたくなります。

交響曲の楽章の間では拍手はしない、という大原則も守られないことが増えてきました。これは、演奏家にとっても大変迷惑な話で、楽章と楽章の間の緊張感が破られ、次の楽章に入りにくくなります。組曲や変奏曲などの場合も同じで、ひとまとまりの曲がすべて終わるまで拍手をしないのがマナーです。

その昔、サイトウキネン・オーケストラを引き連れて小澤征爾がアルテオペラで演奏した際、楽章間で拍手してしまった大勢の日本人に指揮棒で拍手をしないでの合図を送った、という場面に遭遇したことがあります。同じ日本人として恥ずかしい思いをしたのですが、最近ではドイツ人もその他の外国人も、これをやってしまう場面がしばしばあり、唾然とします。

コンサートは演奏家と聴衆が一体となって、緊張感を分け合いながら盛り上げていくものです。そうすると拍手も「たかが拍手」とは言えなくなります。「拍手」の在り方について、みなさんもちょっと考えてみてください。そして上手な間合いで拍手をして、聴き上手な聴衆になってください。

ちょっとだけ 演奏会情報

~フランクフルト市立オペラ劇場の5月の演目より~

子どものためのオペラ「シンデレラ」

5月 5日(土) 13時30分と15時30分の2回公演
8日(火) 16時、
10日(木) 12時

レハールのオペレッタ「Die lustige Witwe (メリー・ウィドー)」

5月 13日(日) 18時(プレミエ)
18日(金) 19時30分
20日(日) 18時
27日(日) 19時30分

